NEWS LETTER Vol.2
2017/10/20

山口大学農学部同窓会東京支部

東京支部の発足とその後の発展

獣医専　第５回生　大橋　義光

支部発足となった切掛け

山口大学農学部同窓会会則は昭和34年に制定されており、最初の同窓会会長は獣医専第１回卒業（昭和22年3月）の板田利明氏だったと記憶している。坂田氏は下関市の市会議員であった時に新たに設立される山口大学農学部を長府の地に誘致することに尽力された方だと聞いていました。この会則には会員名簿と会報を発行することが規定されていた。その頃、東京大学の家畜内科学助教授となっておられた北野訓敏先生から在京の山口大学農学部卒業者の有志で支部同窓会を作ったらどうかという話がもちあがった。北野先生は山口大学へは家畜内科学の講師として着任され、私たちが獣医学専攻科過程を終了するまでの期間、新大生が山口での教養課程を終わるまで長府の留守番のような役目を一緒にした仲間でした。長府の街では飲み屋などに北野先生と一緒に入ると「長府の大学生がきた」と評判になるほどでした。その後、北野先生は東京大学に内地留学し、そのまま同大学の内科学助教授になられました。私の同級生の峰谷龍一君が埼玉県で獣医業を開業して北野先生の研究室へ通っていた時に同窓会の話になり、そのことを峰谷君と親しい奥平弘之君（当時、労働調査会勤務）が知り、それなら農林省に居て同窓生の動静に詳しい大橋に話してみようとなったようです。

支部発足の呼びかけから初会合まで

同窓会支部設立に当たって、本部が出した名簿や私が得ている同窓生の動静情報などをもとにして、初会合の開催案内を発送し、出欠を確認したうえで、東京駅八重洲口の国際観光会館地下のレストランで初会合を開いた（昭和35年12月10日）。この時の参加者は北野先生を含め14名であったことが当時撮影した写真に残されている。なお、第2回目の会合については残念ながら手元に資料が見つからないが、昭和37年12月17日には銀座の大洋漁業㈱のいさみ会館（掛　勉氏の伝手）を利用させてもらって開催したことが写真アルバムに残されていた。出席者は北野訓敏、宮本恭誠、奥平弘之、後藤清次、清水吉弘、小野進啓、渡辺　清、大福静雄、掛勉、原田熊行、大橋義光、清水安善、斉藤郁三、本好茂一、原田玉雄＊、千田英一、黒瀬暁雄＊、峰谷龍一（順不動18名、＊農学科その他は獣医学科）。

会場の運営と会員の増加対応

初期の会場設定には交通の便や経費等のことも勘案して、その都度、都内の場所を探していたが、同窓会開催案内の出欠回答の中に綿木勲氏（獣医専第2回卒業、自衛隊衛生学校教官）から、「自分は今回出席できないが、もし今後会場を探す場合、市ヶ谷に防衛庁の職員保養所があるので「綿木」の名前で利用も可能」という添え書きがあった。以後「市ケ谷荘」を利用したが、その後この施設は高層ビルに建て替わって市ケ谷会館となり一般にも開放されるようになった。平成5年5月には、この会館で小田良助先生の叙勲祝賀会を同窓有志で行ったこともあった。平成9年頃から遠方からの出席者の都合も考慮に入れ足場のよい東京駅ステーションホテルを利用させてもらうことにした。その後、これまで開催時期を原則12月の第一土曜日を目標にしていたが、師走の月は他の行事と重なることが多いなどから11月の最終土用日に変更され、会場も平成8年から赤坂エクセルホテル東急を利用されており、さらに近年は明るい時間帯に小講演会と懇親会が組み込まれて年長者にも配慮されるようになっている。

同窓会の会合への参加人数については発足当初からの関心事になっていた。当時は東京および近県に勤務又は在住の会員はまだ少なかったため、農林省畜産局衛生課にいた私のところを訪ねてきて、「東京には同窓会ができているそうですが、今度こちらに勤務することになりましたので会員に加えてください」と自己申告される方もあった。私としては特別な辞令がなど貰っていたわけでもなく、いつの間にか幹事役をする羽目になっていました。昭和39年東京オリンピックの開催の年にカンボジア国へ技術援助に赴き、2年間日本を留守にしたり、昭和54年～56年京都にある近畿農政局勤務している間は他の人に幹事役をお願いしていたのですが、その間の開催状況は知ることはできませんでした。

昭和58年頃から同窓会の会合への参加者増加を計るため、新しい山口大学農学部同窓会会員名簿から東京都の他関東一円の近県に勤務または住所がある人を拾い出して名簿一覧表を作り、これを東京支部同窓会会合の開催案内に同封して、あて名本人はもとより、知り合い、友人など誘い合わせの上参加されるように依頼した。その際会の名称は「東京支部となっているが「関東一円の地域を含む」ことを了承してもらうこととした。（案内状に同封した名簿は、獣医学科のみのものであったが、発送153通のうち、回答があったもの50通、うち出席は30人ほどであった。）会合に出席された人の名簿も当日配布することとし、これら一連の事務的用務については、高原さん、深町さん、桑野さんらの献身的な協力があったことを記しておきたい。

最後に山口から在京になられて支部同窓会の会合にご臨席いただいた恩師の方々のお名前を掲げて感謝の意を表したいと思います。

北野訓敏　石黒秀雄　小原甚三　戸田光敬　鹿江雅光　小田良助　牧田隆之（敬称略・順不同）

山大ＯＢ、ＯＧ会（東京）便り

祝：山際大志郎（Ｖ41,Ｈ7）衆議院議員　5期目当選

同級生の山際代議士、山口基金の七村奨学金の設立者である七村先輩(経済)と会食した際に、この輪を広げると面白いなと思い、縁のある卒業生に声をかけ、OBOG会と称した懇親会を開催しております。本年9月には深町会長、久保田幹事、岡学長にも参加していただき、総勢23名（農化7名、獣医5名）浜松町に集合しました。岡先生から山大の現状と学長のビジョン等高尚なお話、代議士からは大臣を目指すと力強い所信表明もございましたが、ストームを始める輩も現れ、学生時代を懐かしむ楽しい時間を過ごしました。今回は全学部の卒業生が揃ったので、鉄鋼屋、土建屋・医薬品・食品、医師、自民党代議士、起業家、野党議員秘書等業種の垣根を越え、さまざまな話題で盛り上がりました。民主党代議士秘書と自民党代議士の掛け合いも面白かったです。　次回は是非ご一緒に　（中嶋　久士 C23,H5)

メール配信にご協力を
皆様のメールアドレスを事務局まで
ＢＣＣ配信ですのでアドレスは公開されません

会　長　深町 輝康(V16,S43卒　：smile-vet@chic.ocn.ne.jp
事務局　桑野　昭（V21,S48卒）：kuwa5ayt@green.ocn.ne.jp
幹　事　久保田 徹(C2,S47卒）：tkubota39@m7.gyao.ne.jp

私の軌跡　Ｎｏ,１

母校で学び、各界で活躍された同窓の方々から波乱に満ちた、真摯な軌跡を語って頂く欄を設けました。第1回は　村上　洋介先生。

村上洋介　先生　　獣医学科21回生　岐阜大学共同獣医学科特任教授

私の生家は岡山県北部の山間の地にありました。昔の農家では役牛が飼われ、家族同様の牛を診る獣医師は子供心に憧れの的でした。同じ環境で育ち先に獣医師となった兄の後を追うように1969年に山口大学獣医学科に入学、同大学院修士課程までの間を石黒先生、佐藤先生並びに井上先生のおられた病理学教室で過ごし、剖検例の病理組織学的検討を輪番担当する傍ら、先生方が取り組んでおられた研究にも関わることができました。微生物学の鹿江先生や解剖学の牧田先生からも研究の面白さをお教え頂く中で、牛の異常産の大流行に遭遇、これを機に産業動物の疾病研究の道を志し、1975年に当時の農林省家畜衛生試験場（のち動物衛生研究所を経て現在は農研機構動物衛生部門、以下動衛研）に採用されました。

動衛研での最初の約10年間は北海道や東北の支場にも勤務し、生産現場で沢山の疾病を経験しました。農家や地域の獣医師の皆様に加え地元獣医大学の先生方との出会いもあり、多くの実学の師に恵まれてワクチン開発や不明疾病の解明に取り組んだ時期でした。昭和も終わりの頃、口蹄疫等の越境性動物疾病を扱う研究部門（東京）に異動しました。家畜・畜産物の輸入量が増大するなか、口蹄疫等の防疫技術の開発は日本でも喫緊の課題でした。当時は世界貿易機関設立前夜で同機関の衛生検疫措置（WTO-SPS）協定はまだ発効していませんでしたが、各国はWTO-SPS協定の科学的根拠となる国際獣疫事務局（OIE）の規約策定を主導するため、巨費を投じて高度封じ込め（BSL3Ａｇ）施設を整備するなど、自国を代表する動物衛生研究機関の強化を着々と進めていました。しかし一方の日本では、施設こそありましたが、国は政策として国内で口蹄疫等の病原体を扱うことを禁じていました。そこで、職場仲間と分担しながら発生国や各国の研究機関などを巡り、内外で得た研究成果を繋ぐといった非効率な研究を行いつつ有事に備えていました。先の口蹄疫の国内発生で活躍した種々の防疫手法の開発もこうして蓄積してきたもので、それらは世界の動物衛生研究機関の仲間との交流の賜とも言えます。

国の研究機関が法人化された2001年に研究現場を離れ企画管理部門に異動しました。その直後に国内でBSEが発生しました。当時動衛研には英国との共同研究を通じ10年来のBSE研究実績がありましたが、BSE問題は食の安全の根幹に関わること。国民の不安を払拭するためにも謎の多いBSEの研究を加速するようにとの関係閣僚の厳命があり、国会質問やマスコミへの対応を行う傍らで、プロジェクト研究の企画と関連府省との連絡調整、大型BSL3Ａｇ施設の新規整備、そのための地元住民との合意形成等、研究所でも休日昼夜を問わず慌ただしい対応が続きました。こうして所長を最後に2010年に動衛研を退職するまでの10年間、口蹄疫、BSE及び高病原性鳥インフルエンザ等の越境性動物疾病の発生、食肉の安全性に関わる食中毒や耐性菌の出現、生産性を障害する慢性疾病の蔓延等、わが国の家畜防疫史でも特筆される重要課題が続く時期に研究所の管理運営に関わることになりました。アジアに山積する動物衛生問題の積極的対応のため、動衛研が農林水産省動物医薬品検査所とともに動物疾病の防疫及び診断並びに生物製剤の評価に関するOIEコラボレーティングセンターを取得したのもこの時期でした。振り返ればこの時期が厳しくも最も充実した時期で、動衛研の責任者として畜産物のリスク評価に必要な科学的根拠を着実に示すという機関の使命に些かの貢献ができたようにも思います。

さて、世界に目を向ければ、所得向上に伴う需要に呼応する形で家畜生産が急増する一方で防疫機能が追従していない新興国や、動物疾病が依然貧困からの脱出を妨げている途上国等、動物衛生問題への対応には地域的な不均衡が見られ、畜産物生産の安全保障やそれらの安全確保は環境問題を巻き込んだ地球規模の重要課題となっています。そしてそれらの問題解決に果敢に立ち向かっているのは国際機関等を通じて活躍する世界の獣医研究者達です。

在学生の皆さん、動物衛生研究を通して国際社会で活躍してみませんか！

山口大学大学院修士課程修了。2010年まで動物衛生研究所長。獣医学博士。厚生労働省及び文部科学省の審議会等の委員、帝京科学大学教授などを経て、現在は岐阜大学特任教授、内閣府食品安全委員会及び農林水産省政策審議会等の委員を担当。

母校便り（新企画）：　獣医学部外科学教室

●仲間： 2016年12月～：学部生4年3名（*伊藤・坂井・酒井*）、アジア研修獣医師（*Dr.Choi,DVM,Ph.D*）が入室。2017年4月1日現在、外科の総勢12名（教職員4,院3,V6;1,V5;1,V4;3）。院生５年の山根氏はで獣医療に奮闘中。生石氏（谷先生主指導）は修了条件完了。伊藤氏も論文量産中。

●病院スタッフ:外科系９、内科系５、繁殖３、大動物教育8(田浦・高木・角川・谷口・佐藤宏・柳田・檜山・ウマ〇〇教授)　Vet4名＆VT14名(24時間診療2名増員予定)、検査技士２名（太田・新田）、院生、事務５名（鍵谷・岩下・辻・竹中・林・夜間は３名が交代勤務）。動物看護学校からの実習生も増加（岡山・広島・下関・京都）。

●旅立ち:学部：学部６年の中で㊀*衛藤*氏（NICTHにおけるIGFに関する研究（副査：馬場先生）㊀*左*氏：慢性肝炎モデルにおける磁性化犬骨髄間質細胞のMRIを用いた追跡(副査：板本先生）の２人が卒業。*2*氏は臨床をやりながらの内容の濃い上記卒論内容でペガサス賞を受賞し、*衛藤*氏は東大大学院獣医外科進学、*左*氏は小動物臨床代診へと旅立った。

平成29年度東京支部同窓会開催のお知らせ

平成29年11月25日土14：00～17：30
場所：赤坂エクセルホテル東急13階
総会・小講演会：雅の間
懇親会：　光の間
東京都千代田区永田町2-14-3
TEL：03-3580-2311 会費：10,000円

訃報

＊小田良助先生　山口大学名誉教授（畜産）平成29年9月12日ご逝去、享年100歳、同月14日、北区赤羽にて送る会開催、
＊戸崎嵩明氏（V8,S35）平成29年8月11日ご逝去、同10月7日、品川区大崎にて偲ぶ会開催

編　集　後　記

山口大学を卒業し、それぞれの分野でご活躍のことと拝察申し上げます。
皆様のエネルギーの原点は母校です。後輩は先輩の軌跡に憧れます。

発行/山口大学農学部同窓会東京支部
発行人/東京支部同窓会事務局